

資産運用レポート：グローバル投資

1 はじめに

私が今、行っている作業があります。次の弱気相場において、思い切った投資を行える新たな投資対象の選定です。条件は次のとおり。

グローバル市場で競争優位を保てる強い会社

「あれれ、内需関連のローテク小型株が得意なはずでは・・・」私の投資手法をよくご存じの方は、そう思われたでしょう

実は投資方針に変更を加えるべきか思案中です。その理由を、日経マネー5月号に掲載された片山晃氏のインタビュー記事が代弁してくれています。

かなり悲惨な話になってしまいますが、これまでマイルドだった人口減少のペースが20年を境に加速します。急な坂を転げ落ちるように減っていく。分母が減る中、減少する人数が増えていくので、そのインパクトはこれまでとは全く異なるでしょう。实体经济に甚大な影響をもたらすのは間違いありません。

市場の縮小する中で、参入障壁が低く競争優位の維持も困難なローテク小型株への投資のみで利益を上げ続けるのは、正直なところ厳しい気がします。

というわけで、まず日本株から強い会社をいくつか選んでみて、ふと気づいたことがありました。業種の偏りです。グローバル競争に勝てる企業が、一部の生産財メーカーに限られてしまうのです。

この点に関しては、『「市場」ではなく「企業」を買う株式投資』の著者である川北英隆教授の指摘が的を射ています。

具体的な差異として日本市場に不足するのは、情報（グーグル、アマゾン、アップル、マイクロソフトなど）、エネルギーや資源、ヘルスケア（医薬や病院など：日本の病院は「聖域」であり、投資対象にならない）である。数字になかったが、農業も日本ではやはり「聖域」であり、投資対象にならない。

いずれにせよ、日本に投資しているだけでは、情報やヘルスケアなどの成長分野を見逃し、三振してしまうことになる。その成長分野に日本の企業が参入していたとしても、どの程度の競争力と成長性があるのか。いずれにせよ、グローバルな観点で優れた企業を投資対象として組み込めない可能性が高い。

世界的な経済成長の恩恵を受ける、バランスの取れたポートフォリオを組みたいければ、日本株だけでは難しいかもしれません。今回の資産運用レポートでは、グローバル投資について取り上げます。